

I 特別活動 研究テーマ

仲間との関わりを主体的に求め、学校生活の充実と向上を目指す子どもを育む学び
～よりよい人間関係を形成する学級活動を通して～

II 研究の重点

多様な考えを認め合いながら合意形成を図るために自分の考えを可視化して話し合い活動を進める場の設定

III 3年次の成果と課題

1 成果

(1) 互いの考えを事前に共有し意見や理由を確認する場面を設定した学習展開の工夫

3年次の研究では、課題となっていた話し合い活動において、いかにして全ての子どもが自分の考えをもって学級活動に参加することができるかに焦点を当てた。そこで、自分の考えを可視化できるように、1人1台の学習者用端末を活用した意見シートに提案理由に沿った自分の意見やその理由を入力し、互いの考えを事前にモニターの画面上で共有し意見や理由を確認する場面を設定した。

この手立てを講じることによって、発言することに消極的な児童は、意見シートに入力することで自分の考えを整理し、話し合い活動の際、モニターの画面を確認することで自信をもって発言する姿が見られた。また、一人一人の考えを可視化したことで考えを共有する機会が増え、提案理由に沿っているか考えながら話し合い活動に進んで参加し、互いの意見を伝え、話し合いの共通理解を図る姿も見られた。

このことから、学習者用端末を活用して事前に意見を入力したり、意見を共通理解したりする方法は、自分の意見を伝えやすく、お互いの意見も共有することができ、学級全体の児童の考えの基に合意形成を図るために有効であったと考える。

(2) 友達と支え合い、互いのよさを認め合うことの価値を見いだす省察の工夫

学級活動の振り返りの場面では、友達のために行動したことを記録したり互いのよさを伝えたりすることができるように、学級会カードに自分と友達の考えや思いを比べる友達との関わりを自覚できる項目を加えて振り返りを行い、友達の行動のよさをペアで伝え合う場面を設定した。

振り返りの際に、を「活動に参加しようとする姿」、「活動を進めようとする・まとめようとする姿」、「友達を助けようとする・支えようとする姿」の3つの観点に分類して友達のよさを見つけて振り返り欄に書いてペアで伝え合うことで、自覚していなかった自分のよさに気付くことができ、友達のために自分のよさを発揮しようとする児童が増えた。また、学級会カードの振り返り欄にも「友達はどう思っているのだろう」「もっと関わろう」といった記述があり、自分から他者へと意識が向くようになってきたことが分かる。このことは、友達のために行動できたことを振り返りに記録し、教師が価値付ける働き掛けを行ったからだと考える。

2 課題 自分のよさと友達のために行動する姿を話し合いの中で見取る学習展開

児童が自分のよさを自覚し、友達のために行動する姿を話し合いの中で見取ることが課題である。児童の学級会カードの記入内容の変容から見取っていくことができるよう、意見シートの提示の仕方、授業中の生かし方など、更に効果的な活用の仕方について検討していきたい。また、学習者用端末での考えの共有も協働的な学びとして捉え、学級活動において更に活用できるような授業構想を模索したい。